

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由に
お持ちください

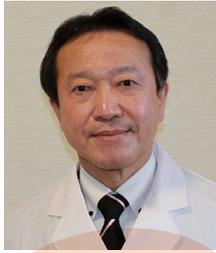
Vol. 60
令和5年度
1号



救急車が新しくなりました（写真左：清田院長 / 写真右：日本赤十字社埼玉県支部 森尾事務局長）

Contents

- 乳腺科部長・第二眼科部長 就任挨拶 P2
- ドクターヘリの紹介 埼玉県の病院前診療について P3
- がん診療連携セミナーの開催について P4
- 総合支援センター便り P5
- 心臓リハビリテーションで元気になろう！ P6
- お仕事紹介コラム 歯科衛生士 P7
- 入社式 P8



乳腺科部長
櫻井 孝志

病院全体をあげて One Team で取り組む乳がん治療

本年4月に乳腺科 部長を拝命いたしました櫻井 孝志です。
近年の乳がん治療は高度化・多岐化しており、またその変化のスピードもどんどん速くなってきております。
手術療法では、乳房切除に加え再建手術や遺伝子異常を認める患者さんへの予防的切除術が保険適応となっております。

薬物療法では従来の化学療法に加え、いろいろな分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の導入、さらに再発治療のみならず周術期治療においてもその適応が拡大され、多くの患者さんが治療の対象となってきております。

また治療に際しては治癒を目指すのみならず、高価格化する薬剤費や妊孕性に関する問題など様々なハードルを同時に解決していかなければならない状況です。

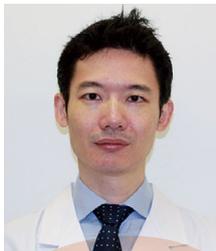
これらの課題に対応するために、手術では形成外科や放射線科・遺伝診療部の協力などが不可欠となり、薬物療法では、とくに近年の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬で生じうる（いままでの化学療法ではほとんど起こらなかったような）副作用に対応すべく、呼吸器内科や糖尿病内分泌内科をはじめとしてほぼ全科での対応をいただくことが必須となっております。

もちろんこれらの治療に際しては、看護部や薬剤部・総合支援センター等々各部署からのご協力が大きな助けとなっております。

埼玉県内において左記のような治療を提供できる病院は当院を含め数少なく、非常に大きな責務を感じております。

幸い今年度から乳がん薬物療法のスペシャリストを腫瘍内科にお迎えすることができました。

各部署との連携をさらに強化し、より質の高い医療を提供できるよう尽力させていただきますので、今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



第二眼科部長
中川 卓

部長就任の挨拶、重点課題、今後の展望について

この度、第二眼科部長を拝命致しました中川卓と申します。2004年に医師免許を取得し、2年間の初期研修を経て2006年に東京大学眼科学教室に入局致しました。東京都健康長寿医療センターに勤務した後、同大学大学院で学位取得し、国保旭中央病院での勤務を経て2017年より当院で勤務させて頂いております。大学病院では角膜外来で診療を行い、2019年より輸入角膜を用いた角膜内皮移植（DSAEK）を導入致しました。その他、白内障手術、緑内障手術（MIGS、濾過手術）、25ゲージ/27ゲージシステムを用いた小切開硝子体手術（MIVS）など、幅広く手がけております。

当科の特色であります難症例および全身疾患合併症例に対する眼科手術では、眼科的合併症のため難易度が高く、様々な術中合併症に対応するために機材の準備が必要な症例、全身合併症により術前後の管理に他科との連携を要する症例など、医療技術の進歩とともにその責務はますます重くなっています。各科と連携を図り、引き続き当科の役割を果たすべく努めてまいります。また、白内障、緑内障、網膜硝子体、ぶどう膜、角膜など、ほぼ眼科全領域の内科的・外科的治療に幅広く対応できる当科の体制の維持に努めてまいります。

今年4月より、新たに2名の先生が加わりました。大学病院の専門外来などとの連携も密に行い医療水準・医療技術の向上を図るとともに、近隣地域の各医療機関の先生方と積極的に連携を図り、石井清第一眼科部長とともに一丸となって切磋琢磨しながら、安全で効率的かつ持続可能な眼科医療を提供できるよう邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ドクターヘリの紹介 埼玉県の病院前診療について

さいたま赤十字病院 救急科 八坂 剛一

(写真提供：埼玉医科大学総合医療センター 園田 健一郎先生)



医師や看護師を乗せて急病人の元へ向かう救急医療用ヘリコプター、通称ドクターヘリについてお話しします。ドクターヘリは1995年阪神淡路大震災などがきっかけとなり、2001年に運航開始、2022年4月現在、全国47都道府県56機が配備されています。埼玉県においては2007年より埼玉医科大学総合医療センターが1機運行しております。2022年の出動は408件で78%は交通事故などのケガに、22%は脳卒中や心臓・血管の病気に対応しています。埼玉東部、秩父、比企広域の順に出動しており、最も遠い秩父であっても20分程度で現場に向かうことができます。このようにスピードがあり地形に左右されず広い範囲をカバーできることが特徴で、山間部や病院の少ない地域でより活躍します。また、災害時には被害の大きい地域の重症患者を被害の少ない地域へ搬送する手段としても有用です。ただ、天候に左右されること、日没までの活動となること、着陸ポイントが限定されることが欠点となります。



病院前に医師や看護師が急病人の元へ向かうことはどのようなメリットがあるのでしょうか。救急救命士には実施できない検査（超音波検査など）、処置（点滴・投薬など）を実施できること、原因となる病気を診断してより適切な病院への搬送すること、事前に搬送先医療機関に情報提供して迅速な治療にむすびつけることなどが挙げられます。

さいたま赤十字病院は東の広域運行拠点として、荒川以東を中心に24時間365日ドクターカーを運行しています。西のドクターカー広域運行拠点は埼玉医科大学国際医療センターが担当しています。埼玉県の病院前救急医療を充実させ、県民が安心して生活できるようにドクターヘリ、ドクターカーが協力して今後も活動していきます。



がん診療連携セミナーの 開催について

がん診療推進センター長
中村 純一

医療従事者
対象セミナー

「先生、正直私はあとどのくらい生きられるのですかね」

・・・がんで治療中の方から時々受ける答えづらい質問です。

心情的にも答えづらいのはもちろんのことですが、最近のがん治療の進歩は目覚ましく、生存期間の著明な延長がみられる疾患が多くなり、新しい治療法とその成績を学んでおかないと、その質問に正しく答えられないのです。

政府は、がん対策基本計画として、がん予防、がん医療、がんとの共生などの、様々な場面での問題点を解決し、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標にかかげて、平成17年から全国にがん診療連携拠点病院を指定し（令和5年3月時点で全国に453施設）、地域のがん医療の中核となり、地域の他施設と連携してがん医療にあたることをすすめています。その指定を当院は当初から受け、地域のがん医療に積極的に取り組んできています。

新規抗がん剤の採用、がんゲノム診断の導入、ロボット手術の導入、新規放射線治療機器の設置など、当院でも新しいがん医療体制を拡充しつつありますが、最新のがん診療を的確に提供し安全に行うためには、まず医療機関の職員が、その診療内容を理解している必要があります。

がん診療の現状と本邦での最先端の取り組みを学ぶために、当院職員と近隣医療機関職員を対象として、「がん診療連携セミナー」を年に2回ずつ開催しております。新型コロナウイルス感染症の影響で、数回休みましたが、昨年から再開し、「がん遺伝子検査とゲノム医療の広がり」、「免疫チェックポイント阻害薬の有害事象対策」などを、最近のセミナーの主題として取り上げてきました。いずれも新たな領域の診療の話で、正確な理解を必要とする課題です。

病院内で働く職員は、来院者にとってはすべて頼られる存在であり、ある程度の医療知識を持ち、担当医師やがん相談支援センターへつなげて、正しい情報提供を行えることも求められます。そのため、これからも病院全職員で研鑽を重ね、近隣地域の医療機関とも連携をとりながら、各病院の特性を生かした地域のがん診療をすすめる努力を続けてまいります。

近隣の医療従事者の皆さま、ご参加をお待ちしております。



(写真：左より)

- ・がん研修教育部会 事務局
- ・がん研修教育部会 会長
松島 秀和
- ・がん診療推進センター長
中村 純一 院長補佐



入院時重症患者対応メディエーター

当院では2022年4月から集中治療部門（ICU・HCU・救急A病棟・CCU・MFICU）を対象に、「入院時重症患者対応メディエーター」として精神保健福祉士を1名配置し活動を行っております。

急な病気や事故などで、突然の入院…

そんな不安な気持ちを抱えるご家族に寄り添い、意思決定支援や心理的サポートなど他職種と連携してサポートいたします。

例えば…

- 突然の入院で医療費など経済的に心配。
- どんな手続きをしたらいいのかわからない。
- 説明を受けたけど難しくてよく分からなかった。
- 今後どうしたらいいのかわからない。
- 勤務先などにはどんな連絡をしたらいいの。

など、お困りではないですか？



入院時重症患者対応メディエーターが病状説明の場に同席します！

ご希望に合わせて医師からの病状説明の場に同席させていただき、対話促進（不安や疑問など）のお手伝いを致します。また、直接相談をご希望の際は個別にお話を伺い、サポートさせていただきます。



対象者 ICU、HCU、救急A、CCU、MFICUに入室した患者さん、およびご家族

対応時間 平日のみ 9時～16時30分

連絡先 048-852-1111

精神保健福祉士 椎名 是文
(入院時重症患者対応メディエーター)



心臓リハビリテーションで 元気になろう!



CCU 病棟
慢性心不全看護認定看護師
大久保 早苗

心臓リハビリテーションは新病院への移転とともに新規事業として開設され、今年で6年目になります。心臓リハビリテーションチームも同時に発足し、当初は医師・理学療法士・看護師計7人のチームメンバーから始まりましたが、現在では栄養士も加わり総勢20人のメンバーで日々、心臓リハビリテーションを提供しています。

心臓リハビリテーションとは

運動療法・生活指導・栄養管理の要素を含み、心臓病により低下してしまった体力を元に戻したり、心臓病と折り合いをつけながら、その人らしく生活が送れるようにリハビリを行うものです。そういった中で私の役割は、心臓リハビリテーション外来の運営や地域との連携を目指した「ハートラちゃんの会」の企画・運営です。心臓リハビリテーションの認知は低く、未だに心臓病＝安静が必要、動いては駄目!という認識が根強くあります。現在は治療を終えて



ハートラちゃんの会 カンファレンスの様子

いる、安定している心臓病であれば心臓リハビリテーションは受けることができます。このため、「ハートラちゃんの会」により心臓リハビリテーションの啓蒙活動をおこない、患者さんが地域に帰ってからでも心臓リハビリテーションを継続していける環境を作るため、当院と連携していただける介護施設・クリニック・病院を探しています。また心臓リハビリテーション継続のため、当院から介護施設へ移行した患者さんを受け持たれているメディカルスタッフ向けに電話相談なども行ってまいります。地域の介護施設やクリニック・病院のみなさま、「ハートラちゃんの会」へのお越しをお待ちしております。また、ご自身が心臓リハビリテーションの対象かどうかにつきましては、主治医にご相談いただければと思います。

お仕事紹介コラム



口腔外科には5名の 歯科衛生士が在籍しています。

歯科衛生士は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的として、人々の歯・口腔の健康づくりをサポートする国家資格の専門職です。

当院の歯科衛生士の役割

① 歯科診療補助

外来手術・全身麻酔・静脈内鎮静下での外科的手術のアシスタント業務、入院・手術のオリエンテーション、連携医療機関との調整など多岐に渡り対応しています。

② 入院患者さんの口腔ケア

ICU（集中治療室）から緩和ケアまで口腔の症状はさまざま、専門的口腔ケアが必要な患者さんに全身状態や病態に応じたケアを行っています。

③ 周術期口腔機能管理

全身麻酔下でがん・心臓血管外科等の手術を受ける患者さんに対し、術前・術後に歯石除去やブラッシング指導などの口腔ケアを実施しています。また、化学療法・放射線治療・骨髄移植では口内炎などが副作用として出現します。治療前から口腔ケアを行い、口内炎の軽減や治療中の口腔内のトラブル合わせてケアの方法を提案し治療のサポートをしています。

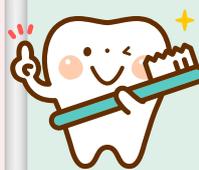
④ 口腔リハビリテーション

脳血管疾患、難病により口腔機能低下がみられる患者さんに対し、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科医師（摂食機能療法専門）と共同し口腔リハビリテーションを行い機能改善・維持を図り経口摂取を安全に行えるよう支援しています。



⑤ チーム医療

NST（栄養サポートチーム）、緩和ケアチームの一員として多職種と連携し、患者さんの早期回復に向けて支援をしています。



⑥ 口腔ケア講義

学会で得た最新の情報・根拠をもとに院内外で医療者や市民向けに講義を行っています。

◎当院の歯科衛生士は有病者の外科処置・治療の診療補助を担うため、全身状態の変化に対応できるようにBLS（一次救命処置）、ICLS（二次心肺蘇生法）を受講しています。

当院外来での口腔ケア・定期受診は行っておりません。

※原則、地域医療機関での定期受診をしていただきますようお願い致します。退院後、主治医の判断で治療上口腔管理が必要な患者さんは外来で診察しています。

歯科衛生士
中田 三栄子

入社式

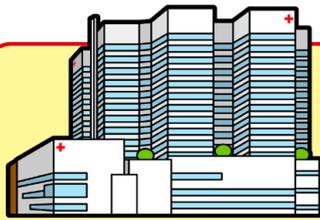
令和5年4月3日、入社式が執り行われました。
今年度は総勢166名（医師56名 研修医15名
看護師65名 コメディカル15名 事務15名）が
新たに仲間入りしました。

新型コロナウイルス感染対策のため、会場に入る前
には健康チェックを行い、会場を分散、オンライン中継
する形での入社式となりました。



式では、清田院長より訓示が述べられ「当院は開院して来年で90周年
を迎えます。これからも埼玉県の医療をリードしていけるよう、職員一丸と
なって働きやすく活気あふれる職場作りを目指しましょう」との激励の言葉
がおくられました。

新たに迎えた職員とともに、人道・博愛の赤十字精神のもと、全職員
一丸となって、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指し、安全・確実
な医療の提供に取り組んで参ります。



令和5年7月5日(水)は
創立記念日のため**休診日**となります。



さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。